

寄稿

医療・福祉現場で働く

聞こえない人たちの

声

-11-

私は、X線を用いた胃、肺、乳がん検診に携わる「診療放射線技師」の宮田充と申します。20歳で失聴、左耳が感音性難聴85dBです。現在は、「がん検診」を誰もが安心して受診できるようにするため、『X線検査の指示が、音声だけではなくイラストや文字や手話でも伝わるシステム』の研究開発をしています（本紙12面参照）。

あなたは知っていますか？健康な方でも毎日、「がん細胞」が体の中でできていることを。人間の体は約60兆個の細胞からでき、その1%の細胞（6000億個）が

毎日複製されて生まれ変わる、とされています。中には複製ミスも5000個くらい生じます。それが「がん細胞」です。

通常は、免疫細胞が「がん細胞」

がん検診を受診して、
大事な命を救おう！

を見つけて死滅させます。しかし、万一、生き残った場合は分裂し、倍々に増えて「がん」の塊かたまりになります。「がん細胞」1個が直径1cm程度の大きさの「がん」になるには10～20年かかりますが、

1cmから2cmになるのは1～2年とされています。2cm程度までは早期がん、それ以上進むと、進行がんになって身体に痛みなどの症状が出てきます。日本では2人に1人は「がん」になり、3人に1人は「がん」で亡くなり、死因の第1位になっています。

でも、安心してください！「がん」は早期発見・治療で、ほとんどが治るといわれています。そのため、日本では死亡率の減少が証明されている5つの「がん検診」（胃、肺、乳、大腸、子宮頸がん）が行われています。ところが、受診率がたいへん低いのです。

あなたは「がん検診」を受診していますか？かけがえのない命を救えるのは、あなた自身です。